

オトナの課外授業 2026

【発売日】
2026年1月7日(水)



【チケットのお求め】 サラマンカホールチケットセンター 窓口、電話 058-277-1110(9:00~21:30) サラマンカオンラインチケット

2025後期
シリーズ9

サントリーホールの舞台裏からコンサートを支える

「ステージマネージャー」とは、オーケストラやコンサートホールにおいて演奏会が滞りなく進むために欠かせない専門職です。今回は、新日本フィルハーモニー交響楽団やサントリーホール第3代ステージマネージャーとして、長年ステージを支えた猪狩光弘氏をお招きし、自身の「ステマネ人生」を大いに語っていただきます。

2026年3月1日(日) 14:00~16:00(受付13:30)

講師:猪狩 光弘(第3代サントリーホールステージマネージャー)

会場:OKBふれあい会館 14階 展望レセプションルーム

定員:80名 料金:1,000円



2026前期
シリーズ1

ウィーン少年合唱団のお話 ~天使の歌声のひみつ

昨年、一昨年の「ウィーンフィルのお話」に続いて、今回は「ウィーン少年合唱団のお話」です。天使の歌声と称賛され、日本でも度々公演を行っている合唱団。NHK(音楽の泉)や<ラジオ深夜便>の解説者としてお馴染み、ウィーンを熟知している音楽評論家の奥田佳道氏が天使の歌声のひみつを語ります。



2026年4月25日(土) 14:00~16:00(受付13:30)

講師:奥田 佳道(音楽評論家)

会場:OKBふれあい会館 14階 展望レセプションルーム

定員:80名 料金:1,000円

関連
公演

ウィーン少年合唱団

2026.6/14(日)14:00開演(13:30開場)

S席7,000円 A席4,000円(サラマンカメイト:S席6,300円 A席3,600円)

サラマンカメイト先行発売2026.1/22(木) 一般発売2026.1/29(木)

シリーズ
2

広上淳一のベートーヴェン先生 大解剖

オーケストラ・アンサンブル金沢アーティストティック・リーダー就任披露公演でも「ベートーヴェン」を取り上げたマエストロ。交響曲第5番「運命」は「表」、同時進行で作曲していた交響曲第6番「田園」は「裏」と語るマエストロが、ベートーヴェンを大解剖します!



2026年5月30日(土) 14:00~16:00(受付13:30)

講師:広上 淳一(指揮者)

会場:OKBふれあい会館 14階 展望レセプションルーム

定員:80名 料金:1,000円

関連
公演

オーケストラ・アンサンブル金沢

2026.9/22(火祝)14:00開演(13:30開場)

全席指定 S席5,500円 A席4,500円(サラマンカメイト:S席4,950円 A席4,050円)

サラマンカメイト先行発売2026.6/5(金) 一般発売2026.6/12(金)

シリーズ
4

世界のパイプオルガン史に名を残した 辻 宏

~円熟期の作品と言えるサラマンカホールの楽器の魅力を探る

パイプオルガンはキリスト教と共に日本にやってきた。だが禁制によりその歴史は明治時代までとだえた。解禁とともにまず普及したのは足踏み式リードオルガンだった。パイプオルガンの本格的な設置が進んだのは、今からほぼ半世紀前のこと。公共音楽ホール建設と共にパイプオルガンの設置も進んだ。この流れの中で、東京藝大オルガン科卒業後オルガン制作に取り組み、アメリカ、オランダでの修業を経て、日本人として初めてパイプオルガンを完成したのが辻 宏だった。辻は、世界のパイプオルガン史に名を残した最初の日本人。その円熟期に制作されたのが、サラマンカホールの楽器である。



2026年8月2日(日) 14:00~16:00(受付13:30)

講師:廣野 嗣雄(東京藝術大学名誉教授)

会場:サラマンカホール

定員:100名 料金:1,000円

関連
公演

徳岡めぐみ オルガン・リサイタル

2026.8/8(土)14:00開演(13:30開場)

全席指定 一般1,500円(サラマンカメイト1,350円)

サラマンカメイト先行発売2026.5/8(金) 一般発売2026.5/15(金)

2025年度 国際交流基金賞受賞

シリーズ
3

マーティ・グロス映画監督に聞く ~日本の伝統工芸に魅せられた僕の映像作品3篇

マーティ・グロス氏はカナダの映画監督。1970年来日して陶工の修行に励んで以来、長年にわたって日本文化を世界に紹介してきた。その功績を認められ、本年度の「国際交流基金賞」を受賞。今回の授業では、1938年に日本文化を外国に紹介するために制作されたドキュメンタリー映画3本を紹介する。これらは、グロス氏が修復し、新たに解説を加えて蘇らせたもので、「美濃和紙」「岐阜提灯」「和傘」といづれも昭和初期の岐阜の風景が映し出され、工芸品を作る職人や女性たちによる華やかかりしモノづくりの現場を見られる貴重なフィルムとなっている。グロス氏には、修復や制作における苦労話、日本の伝統工芸に対する思いを語っていただく。



2026年7月12日(日) 14:00~16:00(受付13:30)

講師:マーティ・グロス(映画監督/プロデューサー)

会場:OKBふれあい会館 3階 302大会議室

定員:100名 料金:1,000円

2025後期【シリーズ9】 3月1日(日)

猪狩 光弘

(第3代サントリーホールステージマネージャー)

1953年北海道生まれ。

1972年～1979年 東京交響楽団ステージスタッフ。

1979年～1986年 新日本フィルハーモニー交響楽団アシスタントステージマネージャー。

1986年～2000年 新日本フィルハーモニー交響楽団ステージマネージャー。

2001年～2019年3月までサントリーホール3代目ステージマネージャー。

2021年 第31回日本製鉄音楽賞特別賞受賞。

現在、フリーランスのステージマネージャー。



【シリーズ3】 7月12日(日)

マーティ・グロス (映画監督/プロデューサー)

カナダ、アメリカ、日本を拠点に活動する映像作家。1970年代に日本で陶芸を学び、1974年にトロントで映画制作を開始。代表作には国際映画祭で高く評価された「As We Are」(1974)、「Potters at Work (陶器をつくる人たち)」(1976)、「The Lovers' Exile～冥途の飛脚」(1980)がある。また、50年以上にわたり、マーティ・グロス・スタジオを主宰し、陶芸や映像制作、写真、版画を子供たちに指導してきた。日本映画を代表する監督や俳優へのインタビューを60本以上実施し、海外における日本映画の公開・普及にも尽力。現在「民藝フィルムアーカイブ」プロジェクトのプロデューサーとして、1930～70年代の工芸関連映像を発掘・修復し、デジタル保存および公開を推進している。長年にわたる日本文化を通じた国際相互理解促進への功績により、2025年度国際交流基金賞を受賞。



2026前期【シリーズ1】 4月25日(土)

奥田 佳道 (音楽評論家)

1962年東京生まれ。ヴァイオリンを学ぶ。ドイツ文学、西洋音楽史を専攻、ウィーン大学哲学科、現文献文化学部に留学。Ph.D. 著書に「これがヴァイオリンの銘器だ」(音楽之友社)、「1冊でわかるポケット教養シリーズ バイオリンを知る本」(YAMAHA)ほか。これまでにNHK、日本テレビ、テレビ東京、WOWOW、BSテレ東などの音楽番組に出演。長年にわたりNHK「ウィーン・フィル ニューイヤーコンサート」生中継の解説を行なった。現在NHKラジオR1「音楽の泉」「ラジオ深夜便 真夜中のコンサートホール」、FM「オペラ・ファンタスティカ」に出演中。(公財)音楽鑑賞振興財団理事。新国立劇場専門委員。NPO法人東京ジュニアオーケストラソサエティ理事。ミュージック・ペンクラブ・ジャパン会員。



【シリーズ4】 8月2日(日)

廣野 嗣雄 (東京藝術大学名誉教授)

東京芸術大学オルガン科卒業。ドイツのヴェストファーレン教会音楽大学に留学し、オルガン、即興演奏、合唱指揮法を学び、教会音楽家(カントール)の資格を得る。国内のソロ活動のほか、NHK等の放送に幅広く出演。国内主要オーケストラとも共演、またバロック音楽の通奏低音奏者としても活躍。海外ではドイツ、フランス、イタリア、フィンランド、スウェーデン、デンマーク、韓国等で演奏し好評を博す。武蔵野市、トゥールーズ(フランス)、ダラス(アメリカ)での国際オルガンコンクールの審査委員をつとめた。池辺晋一郎作曲「ダイヤモンド(同質二像)」〜オルガンとオーケストラのために」N響と共演で初演し1975年芸術祭優秀賞を受賞。上野学園大学、相愛女子大学(現相愛大学)、大阪音楽大学、東京芸術大学で多数の後進の指導にあたった。東京芸術大学名誉教授。キリスト教音楽院院長。



【シリーズ2】 5月30日(土)

広上 淳一 (指揮者)

東京生まれ。尾高惇忠にピアノと作曲を師事、音楽、音楽をすることを学ぶ。東京音楽大学指揮科卒業。1984年、26歳で「第1回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクール」に優勝。以来、フランス国立管、ベルリン放送響、コンセルトヘボウ管、モントリオール響、イスラエル・フィル、ロンドン響、ウィーン響などメジャー・オーケストラへの客演を展開。これまでノールショピング響、リンブルク響、ロイヤル・リヴァプール・フィルのポストを歴任、このうちノールショピング響とは94年に来日公演を実現、さらに米国ではコロンパス響音楽監督を務めヨーヨー・マ、五嶋みどりをはじめ素晴らしいソリストたちとともに数々の名演を残した。

2008年4月より京都市交響楽団常任指揮者を経て2014年4月より常任指揮者兼ミュージック・アドバイザー、常任指揮者として13シーズン目の2020年4月より2022年3月まで京都市交響楽団第13代常任指揮者兼芸術顧問を務めた。2015年には同団とともにサントリー音楽賞を受賞。現在はオーケストラ・アンサンブル金沢アーティスティック・リーダー、日本フィルハーモニー交響楽団 フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)、札幌交響楽団友情指揮者、京都市交響楽団 広上淳一。2025年よりマレーシア・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督に就任。また、東京音楽大学指揮科教授として教育活動にも情熱を注いでいる。2024年第75回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。



サラマンカメイトのご案内

特典

- チケットの先行販売
- チケットの割引(1公演2枚まで)
- ダイレクトメールによるコンサートのご案内
- ミュージックショップでの割引

※お電話(058-277-1110 入会申込書を郵送)および、インターネットでも受付けております。
※年会費2,000円 ※入会申込書は、サラマンカホール チケットセンターにご用意しています。
※年会費の口座振替もご利用ください。